**第３学年３組　国語科学習指導案**

**１　単元名・教材名**　音訓かるた

**２　本時の学習指導**　　（本時２／２）

（１）　目標

　○カンジ―はかせの「音訓かるた」を読んで、漢字を読んだり書いたりすることができる。

（２）　展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **学習活動** | **学習内容** | **指導と評価の創意工夫** | **時間** |
| １　本時の学習課題の確認をする。  ２ 教科書Ｐ９５を見ながら、歌の作り方の確認を行う。  ＜予想される児童の反応＞  ・作り方の手順を理解している。  ３ 漢字の音訓を使った歌をいくつか作る。  ・いくつも歌を作れる児童や漢字の選択に悩む児童もいる。  ４ たくさん作った歌の中で、１つ選択しＡ４の紙に書き写し、イメージできる絵も描く。  ５ グループ内で作った歌の発表を行う。  ６ 全体の場で作った歌の発表を行う。  ７ 本時のまとめを行う。 | ・本時の学習課題  ・歌の作り方の手順  ・漢字の音読みと訓読みを使った歌を作ること  ・既学の漢字の復習  ・清書  ・作った歌の発表  ・本時のまとめ | 〇前時の学習について振り返り、漢字の読み方には音訓があることを確認し、本時では音と訓を使って自分で歌を作ることを理解する。  漢字の音訓を使って歌を作ろう。  〇手順の（１）から順番に読みつつ、その度例を参考に作り方に沿って歌を実際に作ってみせる。  ○手順を板書する際は、教科書の作り方を簡略化した文章を書き、児童が書き写す量を少なくする。  〇漢字の音と訓が正しく使われていることを重視し、リズムに厳密にはならなくていいことを伝える。  ○適当な漢字を選べない児童には、教科書のＰ１４０の「これまでに習った漢字」や、Ｐ１４５の「この本で習う漢字」を参考にしながら歌を作ってもいいことを伝える。  〇机間指導を行い、児童の作った文をチェックする。  ○歌をたくさん作っている児童には、教科書の例文のように、リズムもいい歌にできないか考えるように提案する。  ○児童の選んだ文が音と訓が正しく使われているか確認する。  ○早く清書が終わっている児童には、何枚も清書を書いてもいいことを伝え、紙を渡す。  ○友達の歌が、正しく音読みと訓読みが使われている文になっているか考えることが出来る。  〇発表させることで、友達の作った歌を知ることと、自分では考えなかった漢字の音読み訓読みを学ぶことが出来る。  ○漢字の音と訓を使った文を作ろうとしている。  ○三年生までに配当されている漢字を読んだり書いたりしている。  →送り仮名に気を付けて漢字を正しく書いている。【言語活動】  ○正しい音訓や送り仮名で文を作っている。  →漢字の音と訓を使い、送り仮名にも注意し歌を作っている。  （机間指導による考察）（班や全体での発表による考察）  　このような姿が見られれば、「おおむね満足できる状態である」と判断することができる。  ○本時の振り返りを行い、作った歌を掲示し今後も見られるようにすることを伝える。 | ３  ７  １０  １０  ５  ５  ２ |

３　備考　在籍児童数　３５名

|  |
| --- |
| め  漢字の音訓を使って歌を作ろう。  <作り方>  　１　使う漢字決め。  　 　家  ２　漢字の読み方集め。  　　　　家　　　いえ  　　　家具屋　カグヤ  ３　音訓を使った文作り。  　　　たかしくん　家が家具屋で  　　　力持ち  　４　リズムも整える。  <児童の作品> |

**４　板書計画**